

TOPICS
2

トピックス…②

IDFワールドデーリーサミット
2015をビリニュスで開催

国際酪農連盟 (IDF) ワールドデーリーサミット 2015 が、9月20日から24日、リトアニアのビリニュスで開催された。「持続可能な酪農で栄養格差を埋める」をテーマに開催されたサミットには、世界47カ国から酪農乳業関係者1,283名 (うち日本からは28名) が参加した。

開催国リトアニアの概要

リトアニアはバルト海に面し、森林、湖沼、河川などのある自然豊かな国で、ラトビア、ベラルーシ、ポーランドおよびロシア (カリニングラード地方) と国境を接している。サミット会場となったビリニュスの旧市街は、1994年にユネスコ世界遺産に登録され、ゴシック、ルネッサンス、バロックの複合様式だけでなく、中世的な建築物や住宅などが保存されている。



酪農はリトアニアで最も重要な農業セクターで、生乳は全ての農業生産物の5分の1 (金額ベース) を占めている。2014年1月1日現在のデータによれば、リトアニアでは31万頭の乳牛が飼育されており、2013年の生乳生産量は180万トンで、その約76%は農家で、残りは企業で生産されている。リトアニアの酪農乳業は輸出志向が強く、乳および乳製品の50%以上が輸出されている。輸出される乳製品の大半はチーズであり、輸出先はEU、ロシア、アジア、中東、米国およびカナダにまで及んでいる。

ワールド・デーリー・リーダーズフォーラム

デーリー・リーダーズフォーラムは、世界の主要な酪農乳業関係者が情報を発信、共有する機会である。

今年のテーマは「酪農で栄養保障を向上する」で、国連食糧農業機関 (FAO) の世界食糧安全保障委員会 (CFS) 委員長である HE. Gerda Verburg 女史が「世界の食料安全保障と栄養への取り組み」について基調講演を行った。その後、「酪農はいかに栄養保障に貢献できるか」について、4名のパネリスト (蒙牛乳業 CEO、テトラパック CEO、インド農業省酪農開発事務局長、FAO 動物生産・衛生部長) が、それぞれの立場から考えを述べ、IDF 事務総長の Dr. Nico van Belzen 氏がモデレーターになり、

パネルディスカッションが行われた。

Verburg 女史は基調講演の中で、「飢餓と栄養失調に対する世界的な戦いは確実に前進しているが、今なお7億9500万人以上の人々が栄養不良に陥っている。一方で、生産された食料の3分の1が廃棄されている」と強調し、「2050年までには、生産に影響を与える気候変動、水、土地、排気、疾病及び自然災害など、増加する環境制約のもとで、今より20億人多い人々に持続的に食料を提供しなければならないだろう。持続可能な農業による全人類の食料安全保障及び栄養保障は、すべてのステークホルダーが酪農家を含む食料生産者に彼らの役割を実行できるよう、一緒になって投資し、努力することによって達成できるだろう。CFSはこの問題への取り組みを模索している」と結んだ。

東欧開催ならではの話題

今年のサミットでは、9つの特別講演会で123題の講演が行われた。そのうち開催国のリトアニアが18題、ロシアが5題、ベラルーシが2題、ウクライナが1題、ラトビアが1題、ポーランドが3題であった。これらの国の酪農乳業に関する情報は乏しく、今までのサミットにおいても情報を共有する機会はほとんどなかった。このたびの講演は、リトアニアでの開催だからこそ実現したと言える。

これらの講演の中では、「リトアニア、ベラルーシ、ウクライナ及びラトビアは旧ソ連から独立したものの、経済は今でもロシアに大きく依存しており、とくにリトアニアのロシアへの乳製品輸出は全体の4分の1を占めていることから、ロシアの禁輸措置は大きな影響を及ぼしている」、また「これを契機に新たな市場 (輸出先) 獲得に向けて努力しなければならない」との報告があった。

そのほか酪農政策・経済特別講演会では、世界の酪農情勢について「2014年のキーワードは市場の転換の始まり。つまり、2014年における世界全体の生乳生産量は、2013年に比べ33%増の8億200万トンで、平均乳価は記録的な高値であったが、その後低下している」ことが指摘された。